

プロダクティブ・エイジング トピックス 2019

—海外情報—

6月



海外のイベント

●世界:2019 世界高齢者虐待防止啓発の日

高齢者虐待は長年にわたる問題だが、今も取り組みが十分なされておらず、高齢犯罪被害者を守る法的拘束力のある制度などはほとんど見られない。拘束力がある普遍的な枠組みを前進させる必要性を認識し、「第10回国連高齢化に関する公開作業部会(OEWG)」では「司法へのアクセス」を主要テーマとした。しかしこれは、多くの人たちにとって現実化されていない。

今年度における高齢者虐待防止啓発の日(6月15日)のテーマは、「司法へのアクセス:性的、身体的、経済的犯罪の高齢被害者への法的、社会的、経済的サービス(Access to Justice: Legal, Social and Economic Services for Older Victims of Sexual, Physical and Financial Crimes)」である。この日を記念して、ニューヨークの国連本部では6月6日に特別イベントが開催された他、記念日前後には各国でも関連イベントが行われた。

- <https://www.un.org/development/desa/ageing/world-elder-abuse-awareness-day/2019-2.html>

●世界:9月は世界アルツハイマー月間

世界アルツハイマー月間は、国際アルツハイマー病協会(ADI)が毎年9月に企画する国際的なキャンペーンであり、これは認知症に対する理解の向上とともに、認知症へのスティグマに立ち向かう取り組みである。

このキャンペーンは2012年に始まった。また世界アルツハイマーデーは、毎年9月21日となっており、日本では6月1日に認知症の人と家族の会が、今年の標語「忘れても一人ひとりが主人公」を発表した(紹介記事は[こちら](#))。

世界では2/3の人たちが、自分たちの国で認知症についての理解がまったく／ほとんどない、と感じている。世界アルツハイマー月間の影響力は増しているが、認知

症を取り巻くスティグマや誤解は現在も世界中で問題となっており、世界的なアクションが必要とされている。下記サイトからは、キャンペーンのツールやガイドもダウンロードできる。

➤ <https://www.worldalzmonth.org/>



●英国: Alexa スキルが認知症初期患者の日常生活でリマインド提供

英国で提供されている Alexa スキルの [My Carer](#) は、認知症初期の人の自立維持支援を目指したものであり、たとえば医師の予約や食事の準備など、日常的な活動のリマインドを行う。この Alexa スキルでは、これらの活動リマインダーをプログラムできるだけでなく、家族や友人などの情報(誕生日など)を思い出させることもできる。プログラミングは、本人または介護者が行うことができる。

➤ <https://voicebot.ai/2019/05/23/alex-skill-aimed-at-assisting-alzheimers-patients-launches-in-the-uk/>

●英国: 国際的なデートアプリがシニアをターゲットに

[OurTime](#) や [SilverSingles](#), など、50 歳以上のシングルが出会える機会はウェブ上で不足しなくなった。しかし、英国で立ち上げられた [Lumen](#)(日本語の紹介記事は[こちら](#))では、モバイル専用のアプリであり、テクノロジーに詳しいシニアをターゲットにしている。このアプリでは、アクティブな生活スタイルとしてデートに重点を置いている。その他にも差別化のポイントとして、人間と AI がスキャンしたセルフィー(自撮り写真)で確認された利用者プロフィールや、効果的な会話を促進するためにメッセージは 1 日 6 回までといった制限が挙げられる。

Lumen では 2018 年の立ち上げ以来、100 万件のダウンロードがあった。

➤ <https://considerable.com/older-people-dating-app-lumen/>

●英国: イギリス版「注文をまちがえる料理店」

Channel 4 の新たなテレビシリーズ(6 月 12 日より 4 回にわたり放送)では、認知症の人が働く英国で初めてのレストラン「注文をまちがえる料理店」について取り上げた。アルツハイマー病協会も協力しているこの画期的な実験的取り組みでは、認知症のボランティア 14 名が働いている。英国では 65 歳未満の認知症の人は 4.2 万人いるが、診断後も働き続けているのは 18%に過ぎない。「注文をまちがえる料理店」では、適切な支援とわずかな調整があれば、認知症の人の多くがいかにして自立

し続け職場で貢献し続けられるかを示している。

➤ <https://www.alzheimers.org.uk/restaurant-that-makes-mistakes>

●英国:人口高齢化の中、イングランドの自治体のうち半数でケアホームのベッドが1万減少

ケアの質委員会(CQC)の調査結果から、高齢者の処遇が居住地域によって大きく異なることが示唆された。英国ではケアホームの全体的なベッド数が、この5年間に増加したものの、150の地方自治体のうち、半数では1万床近くが減少した。

英国では人口高齢化が進み、高齢化率は現在の18.2%から2027年には20.7%、2050年には25%に増加すると予測されている。

➤ <https://healthcarebusiness.co.uk/care-home-crisis-as-nearly-10000-beds-lost-from-half-od-englands-local-authorities/>

●スペイン:村をリタイアメントホームに変身

スペインの村、ペスクエサは人口が168人。うち60歳以上は65%である。この村では宿泊機能付きのケアセンターの設立、配食サービス、モバイル機器を用いた緊急通報サービス、移送サービス、道路での手すり設置などによって、高齢者に優しい村づくりに取り組んでいる。

➤ https://elpais.com/elpais/2019/05/24/inenglish/1558691924_831230.html

●ベルギー:関節炎手術を受ける高齢者にバーチャル催眠術は麻酔より効果あり

実験では、肩や手、膝の手術が必要な参加者がヘッドフォンを与えられ、潜水艦のバーチャルツアーを行った。そこでは女性の声で、魚や他の水中生物が案内された。その際に、参加者たちは局所麻酔を受けたが、通常の静脈内鎮静ではなく、仮想現実による催眠術(VRHD)を受けた。これによって人々を眠らせることができるが、一般的に見られる麻酔のような昏睡状態をもたらすものではない。

手術中に潜水艦のバーチャルツアーで鎮静を受けた患者の3/4が、静脈内鎮静をVRHDに置き換えることに成功した。このVRソフトウェアは、患者の呼吸リズムを遅くするようにデザインされている。

➤ <https://www.telegraph.co.uk/news/2019/06/02/hypnotise-older-patients-undergoing-minor-operationsinstead/>

●米国:スマート機器や AI テクノロジーが施設入居を予防?!

AARP 理事で MIT AgeLab の Joseph Coughlin 所長によるこの記事では、センサーやコミュニケーション、AI テクノロジーを集束させることで住宅を変革することができるとしている。それによって私たちが年をとっても他者とつながり続けられ、生活が便利になり、またケアを受けられるようになり、その結果、事実上ナーシングホームにとつてかわることができるであろうと述べている。

AARP の調査によると、「50 歳以上の人の 77% は年をとっても現在の自宅に住み続けたいと思っている」が、「それができると思う」人は 46% に過ぎない。Google Home や Amazon Alexa などスマートスピーカーの導入により、「他者とつながったり、家全体の様々なテクノロジーのコントロールを行ったりすることが、あらゆる年齢層にとって、はるかに容易となった。」これらの機器が「増加しているオンデマンドサービス」と組み合わせられた結果、「自宅に住み続けたい退職者たちの要求を支えるサービスのエコシステム」が作られている。

- <https://www.marketwatch.com/story/this-new-tech-can-turn-any-home-into-a-retirement-home-2019-05-21>

●米国:新たなテクノロジーを使って高齢者をターゲットにする詐欺たち

ボストン・グローブ紙によると、高齢者をターゲットにした詐欺は全国で記録的なレベルに近づいている。これを後押ししているのが専門的なテクノロジーであり、たとえばロボコール、パソコン画面に現れるメッセージ、また地元からの電話と思わせるような偽の発信者番号通知による「なりすまし」などが挙げられる。このようなテクノロジーの多くは、正しい目的のために開発されたものであるが、詐欺師たちは今、これらのテクノロジーをフル活用して悪事を働いている。

「テクノロジーによって、これまではベテランの詐欺でしか関わってこなかったような犯罪がはるかに容易となった」と AARP の詐欺防止部長は述べる。

- <https://www.bostonglobe.com/metro/2019/06/06/senior-scams-proliferate-fraudsters-deploy-new-tactics-and-technologies/5Y7hVENgXNdpcQVFkLr7kM/story.html>

●米国:ニッチ・リタイアメントコミュニティの人气が上昇中

Week 誌によると、ベビーブーマーたちは、自分たちがこれまで関心やエネルギーを注いできたことができる環境で年を重ねたいと考えており、そのためにはお金を惜しまない。

ニッチ・リタイアメントコミュニティとは、「アクティブでい続け、似たような精神を持つ人たちと関わり続けたいと思うシニアに向け、非常に具体的なテーマを設定した住宅オプション」である。たとえばダンス、アート、アカデミックなテーマなどである。こ

のような住宅は高額なものが多いが、最近では、より手頃な価格なものも出てきている。対象者や価格に関わらず、このようにアクティブな生活を送れるコミュニティは、「他者との交流」という高齢者の健康にとって重要な貢献をしている。

- <https://theweek.com/articles/842873/how-baby-boomers-are-reinventing-retirement-home>

●カナダ:認知症ビレッジプロジェクトが進行中

認知症高齢者向け住宅では6月、2つのプロジェクトを開始する。

欧州から来たこのコンセプトでは、施設ケアの代わりにコテージが利用される。このビレッジは6つのコテージからなり、各コテージでは12-13名が暮らしキッチンを共同で利用する。一階建てで約158m²のコテージは、店舗が連なるビレッジの周りに建てられており、店舗ビレッジには食料品店、床屋、美容院、コーヒーショップ、そして居住者がビールやワインを食事と共に楽しめるパブなどがある。

また、アートスタジオやコミュニティ庭園などを整備したコミュニティセンターもある。ビレッジは目立たない形でフェンスが設置され、すべての建物へ続く歩道や出口は安全を配慮している。72名のスタッフがケアやモニタリングを行う。

- <https://biv.com/article/2019/05/bcs-first-dementia-village-set-open-langley>

●カナダ:認知症の人を対象とした運動プログラム改善ツールキットを開発

カナダの加齢研究所(RIA)が主催した会合には、研究者、当事者、ケアパートナー、運動プログラム提供者、地域住民などが集まり、認知症の人に優しい運動の提供方法について議論した。このグループのまとめ役はローラ・ミドルトン教授で、目指しているのは「認知症の人にも包摂的な運動の選択(Dementia Inclusive Choices for Exercise(DICE))」ツールキットの共同開発である。

この取り組みでは、運動プログラム提供者が既存の運動プログラムを使って認知症の人と関わり、認知症の人たちを包摂および支援する能力を向上させることを目指している。この取り組みはまた、認知症の人たちを適切なプログラムや提供者につなぐことも目的としている。

ミドルトン氏は、認知症の人たちが運動する機会を、量的にも質的にも向上させるよう望んでいる。

- <https://the-ria.ca/news/sharing-knowledge-to-improve-exercise-opportunities-for-people-living-with-dementia/>

●カナダ:高齢患者の手術前運動プログラムが初期段階の結果で効果示す

最近行われた試験的調査では、高齢で虚弱化している患者を対象とした、がん手術からの回復力向上を目指す術前運動プログラムの効果を分析した。

予備調査結果では、このプログラムが有益かつ低コストのセラピーで、患者も十分耐えうるものであることが示唆された。この運動プログラムは、患者の筋力、心血管の健康および柔軟性の向上を目指したものである。このプログラムではまた、栄養指導も提供された。研究者たちは患者と1週間に1回対話し、自宅での運動が確実に行われるよう図ったほか、運動の促進も支援した。

研究者たちは試験的調査の結果を分析中であるが、この秋には全国 12 か所の医療施設で手術前運動プログラムの調査が開始予定である。

- <https://ottawacitizen.com/news/local-news/pre-op-exercise-program-for-elderly-patients-scores-early-results-at-the-ottawa-hospital>

●カナダ: ElderDog Canada:シニアがペットと暮らし続けられる支援を提供

ElderDog Canada の会長によると、ボランティアの支援によって高齢者たちは、可能な限り愛犬と一緒に暮らし続けることができる。ボランティアは例えば散歩やドッグフードの配達受け取り、獣医やトリミングサロンへの送迎などを行う。その他のサービスとしては、高齢者が入院した際の一時預かりや、高齢者が施設入所または死亡した際の引き取り、死別の支援などが挙げられる。

- <https://www.vancourier.com/living/keeping-seniors-and-their-senior-dogs-together-1.23853798>
- <http://www.elderdog.ca/>

●カナダ:ケアホームの VR バイクツアー:Google ストリートビューの活用

エドモントンにあるケアホームでは、Google ストリートビューのテクノロジーを活用し、入居者がエアロバイクで VR ツアーを行うことができる。スウェーデンのエンジニアが開発したこの BikeAround は、価格が 1 台 24,000ドル。この機器は、認知症の人たちが過去に住んでいた町を自転車を漕いで訪れるのに活用できるが、中には町の様子が変わってしまい動揺する人もいるようである。

- <https://edmonton.ctvnews.ca/google-powers-virtual-biking-program-for-edmonton-seniors-1.4475383> (紹介動画あり)

●韓国:高齢者の自動車死亡事故を踏まえ、専門家が条件付き免許交付を提案

高齢者による自動車死亡事故を踏まえ、政策の改訂や高齢者への条件付き免許証交付を呼びかける声が高まっている。免許証返納を促して高齢者の運転を減らそうという政府の動きは、李洛淵(イナギョン)首相が主導しており、彼は自らの免許証返納を誓った。

道路交通公団によると、高齢者の増加に伴って免許証保有者全体に占める高齢者の割合も増加し、2014年は2.5%だったが現在は9.5%まで上昇した。このような変化により、高齢ドライバーによる交通事故も増加している。そこで李首相は、医療記録を組み込んだ運転免許証のスクリーニングシステムを提案した。

ニュージーランドとデンマークでは、75歳以上のドライバーは免許証更新の際、警察と医師によるテストを受けなければならない。ドイツとスイスでは、テスト実施後に高齢者の運転免許証へ条件を課している。

- http://www.koreaherald.com/view.php?ud=20190603000648&ACE_SEARCH=1

●シンガポール:「脱オムツ」に向けたナーシングホームの試験的プログラム

いくつかのナーシングホームでは、日本のプログラムと似た「脱オムツ」の方針に率先して取り組んでいる。この目的は、入居者の尊厳を保ち QOL を向上させることでエンパワーするとともに、尿路感染症や褥瘡、おむつの長期使用による不快感を減少させることである。

自立排せつプログラムは1-2か月かかり、そこでは入居者の生活で個別の変化が必要とされる(例:脚力強化、投薬の量や時間の変更、夜間のカフェイン摂取減量など)。

- <https://www.straitstimes.com/singapore/health/some-nursing-homes-help-wean-elderly-residents-off-diapers>

●シンガポール:シニア層の増加をデジタルサービスの魅力的なターゲットとして見る銀行の取り組み

いくつかの銀行では、増加するシニア層を魅力的なターゲットととらえ、シニア特有のニーズに応えるデジタルサービスで顧客獲得に取り組んでいる。以下に例を挙げる。

- ◇ Maybank の [Passion Plus Programme](#): 優遇された利率やお得な割引、無料の個人傷害保険などを提供
- ◇ OCBC の [Silver Years](#) プログラム: シニア向けの金融アドバイスやライフスタイルプログラムを提供するほか、10分以内で遺言書を作成できる[無料オンラインサービス](#)も始めた。

- <https://www.todayonline.com/singapore/banks-offer-new-digital-services-meet-needs-consumers-millennials-seniors>

●香港:家庭内労働者への門戸を開いたが、バングラデシュやインドネシアからの数は低迷

香港は2013年にバングラデシュと協定を結び、家庭内労働者の受け入れが始まった。締結当時は、これで家庭内労働者不足の解決に向けた道がいくらか開けるのではないかと、という望みがあった。しかし香港入国管理局によると、バングラデシュから来た家庭内労働者は、2013年12月で275人、2014年同月で594人、2015年で650人、2016年で517人、2017年で507人、2018年では1人だった。

労働者勧誘担当機関によると、低迷の背景には以下を含むいくつかの問題がある。

- ◇ バングラデシュの労働者派遣機関にとって、香港への派遣は利益率が低い
 - ◇ 長期にわたる研修期間が必要
 - ◇ 言葉の壁
 - ◇ 最初に来た労働者の多くが間もなく失踪
- <https://www.scmp.com/week-asia/politics/article/3013639/hong-kongs-domestic-worker-shortage-bangladesh-can-help-out-even>

●中国:中国の会社が転倒用エアバッグを開発

このベルトは、かつて同社が製造していた自動車のエアバッグのような働きをする。エンジニアたちは、中国の人口高齢化に伴う消費者の需要に応える可能性を見出した。

脇のパウチにマイクロジャイロを取り付け、転倒のスピードと着用者の角度を検知するようにした。機器が転倒を検知すると、エアバッグが作動する。エンジニアたちは、高齢者が転倒して地面に着くまでに0.3秒かかると判断した。エアバッグが完全に開くまでの時間は、0.18秒以内である。

- <https://www.euronews.com/2019/06/13/watch-chinese-company-designs-wearable-airbag-for-the-elderly>

●オーストラリア:プロセスを簡易化して高齢者の住宅ダウンサイジングを奨励

National Seniors Australiaによると、多くの人たちが住居のダウンサイジングを考えているものの、いくつかの障壁によって思いとどまっている。この問題としてたとえば、印紙税(不動産売却の後に課される税)、引っ越し費用、売上金額が年金にもたらしうる影響などが挙げられる。

このような課題解決のため、National Seniors Australia はいくつかの州に対し、プログラムを制定するよう説得した。

オーストラリア首都特別地域では、約 47.5 万ドル未満の住居売却に対する印紙税を免除しており、免除額は、約 62.3 万ドルを上限にスライド制で減少する。タスマニアでもまた同様の措置を講じているが、2019 年会計年度終了後は保証されていない。ヴィクトリア州およびノーザンテリトリーでは類似の、しかしそれほど多額ではない給付を行っているが、クイーンズランド、西オーストラリア、南オーストラリアおよびニューサウスウェールズ州では、このようなプログラムはない。

- <https://nationalseniors.com.au/news/latest/seniors-crying-out-for-better-downsizing-options>

●オーストラリア:大学生と要介護高齢者が同居:試験的プログラム

サンシャイン・コースト大学(USC)とナーシングホーム「Cooina Aged Care Gympie」は、共同で USC 学生の住居不足と施設入居者の日常生活や QOL 向上の対応に取り組む。

学生たちは、施設でボランティア活動を行うことで割引価格で部屋を借りられる。このモデルは、オランダで始まった [Humanitas](#) のプログラムに基づいている。

収集データを使って、国内の他の介護施設でもこの取り組みに関わるよう奨励したい、と研究者たちは述べている。

- <https://www.agedcareguide.com.au/talking-aged-care/new-study-houses-university-students-and-aged-care-residents-together>

●オーストラリア:高齢者介護施設入居者が自転車と VR で旅に出る

南オーストラリアにある介護施設 Alwyndor Aged Care の入居者たちは、改造されたエアロバイクをこぎながら VR のヘッドセットを付けている。この装置によって、大陸横断のサイクリングをしたり、ジェットコースターに乗ったり、あるいは宇宙への旅まですることができる。VR の景色は定期的に追加される。これは入居者の心肺機能だけでなく、仲間づくりという点でも効果がある。

- <https://10daily.com.au/news/a190614lbexa/how-these-aged-care-residents-manage-to-travel-the-world-20190614> (紹介動画もあり)

●オーストラリア: My Aged Care ウェブサイトのリニューアル

2019年6月24日に、My Aged Care ウェブサイトがリニューアルされた。これにより、高齢者はケアサービスを探しやすくなり、サービスへのアクセス方法も理解しやすくなる。新たなサイトの改良点は、以下の通り。

- ◇ 高齢者ケアサービスへアクセスするための、シンプルなナビゲーションと

明確なステップ

- ◇ 簡単な英語で書かれた高齢者ケアに関する新たな情報
- ◇ 更新版「提供者を探す」ツール: 検索結果表示をスピードアップ、フィルターオプション増加、在宅ケアの価格情報での透明性や比較可能性向上、高齢者にやさしい言葉づかい
- ◇ サービス提供者に関する内容

リニューアルにあたって、政府はユーザーテストや関係者との協議を行っており、今後もフィードバックや継続的なユーザーテストを基にウェブサイトを更新し続ける予定である。

➤ <https://www.myagedcare.gov.au/>

●南アフリカ:最新の車両技術で高齢者の身体的制限を補完可能

南アフリカのフォード・モーター社は、車両技術はすべてのドライバーに役立つようになってきているが、その多くは、加齢によって生じる身体的な制限を補うのに使えるツールとなりうる。したがって、高齢者はできるだけ長く安全に運転し続けられると述べる。

設計者やエンジニアは「サード・エイジ・スーツ(高齢者疑似体験スーツ)」を装着し、加齢関連の身体的問題(例:柔軟性、聴力、動作、視力、触覚機能の低下など)をシミュレーションする。このように加齢を直接体験することで職員たちは、高齢者と自動車の相互作用を理解できる。

そこから得られた知見には、たとえば開けやすい大きなドア、言葉や数字が読みやすいフォントや色の整然としたスクリーン、視野を改善するよう調整したミラーなどが含まれる。

➤ https://www.wheels24.co.za/News/Gear_and_Tech/age-is-but-a-number-heres-how-car-tech-is-helping-the-elderly-stay-mobile-20190605

●英国:無償ケアラーの支援展開に向けて 500 万ポンド投資

ケアラー・イノベーション・ファンドではこの度、主流の医療およびケアサービス以外で、介護者のウェルビーイング向上を目指す新たなプロジェクトに 500 万ポンドを投資する。この資金は、全国で支援を改善したり、ケアラーフレンドリー・コミュニティを構築するために活用される。

資金提供の対象となるプロジェクトには、テクノロジープラットフォームやサポートグループなどが含まれる。プロジェクトで期待される効果は、たとえば介護者の健康やウェルビーイング、仕事と介護の両立、介護の役割からの一時解放、孤独や社会的孤立の解消などが挙げられる。

この資金に申請できるのはチャリティーや中小企業などで、申請では、プロジェクト

の独創性や地域へのメリット、拡大や再現の可能性を示す必要がある。介護者や他の専門家が審査パネルに加わり、企画の実現可能性を評価する。

- <https://www.gov.uk/government/news/5-million-fund-to-develop-support-for-unpaid-carers>
- <https://www.gov.uk/government/publications/carers-innovation-fund-how-to-apply>

●英国:グレート・マンチェスター合同行政機構(GMCA)が地域産業戦略を発表:人口高齢化のチャンス活用を明記

GMCA は 2019 年 6 月、地域産業戦略を発表した。Centre for Ageing Better は GMCA と戦略的パートナーシップを結んでおり、特に雇用や住宅、交通面で、高齢化のチャンスと課題への戦略的な対応のコーディネートに取り組んでいる。

同センターの最高責任者は、以下のように述べる。「GMCA が高齢化のチャンスを活用する地域産業戦略を発表したことは素晴らしい。これはすべての自治体にとって最優先事項となるべきだ。GMCA とのこれまでのパートナーシップなどから我々は、この地域でどれだけ画期的なことが行われてきたか理解している。50 歳以上の失業者減少や、ヘルシーエイジングの推進に向けたイノベーションにいたるまで、様々な取り組みが行われてきた。急速な人口高齢化によって、早急な対応が求められている。地域のリーダーと政府、そしてビジネスとボランタリーセクターとのパートナーシップは、この機会を活用する最適な方法である。」

- <https://www.ageing-better.org.uk/news/ageing-better-welcomes-gmca-local-industrial-strategy-focus-over-50s>
- <https://www.greatermanchester-ca.gov.uk/media/2132/gm-local-industrial-strategy-web.pdf> (戦略全文。Ageing については p.32 参照。)

●米国:ワシントン州とハワイ州による税を財源とした介護プログラムを各州が注視

介護保険給付を提供するはずだった医療保険改革(Affordable Care Act)の条項を連邦政府が廃案にしてから約 10 年がたった現在、ワシントン州とハワイ州では、税を財源として高齢者が自宅に住み続けられるよう支援する計画を実験的に行っている。

ワシントン州では 5 月に法律が成立し、そこでは 0.58%の給与税が財源となり、在宅ケア等のサービスで一人当たり 36,500ドルを給付する。

一方ハワイ州では、公的資金によるクプナ介護者プログラム(Kupuna Caregivers Program)を実施している。このプログラムでは、家族介護者が週に 30 時間以上自宅外で働いている場合、サービスへの支払いとして週に 210ドル給付する。

他州の政策立案者たちは、自分たちの州でのプログラムに向けた知見を集めるため、両方のプログラムを注視している。2015年に保健福祉省が行った調査によると、65歳以上の人のうち半数以上は日常生活で長期的な支援が必要となり、その平均期間は約2年である。

- <https://khn.org/news/payroll-tax-is-one-states-bold-solution-to-help-seniors-age-at-home/>

●カナダ:カナダ政府が認知症国家戦略を発表

2019年6月18日、カナダ政府は認知症に関する国家戦略を承認した。この戦略は世界で32番目に採択されたものであり、内容としては、認知向上、ケアへのアクセス、支援や治療、認知症の研究やリスク低減に向けた2025年までのターゲットなどが含まれる。

カナダでは認知症の人は50万人以上と見込まれており、その結果、医療システムや介護者費用の自己負担で合計100億ドル以上が毎年費やされている。認知症の人の数は2031年までに66%増えて93.7万になると予測されているため、このような経済および社会的コストは急増すると見込まれる。

「認知症国家戦略:共に目指す(A Dementia Strategy for Canada: Together We Aspire)」と題したこの計画は、アルツハイマー病協会や認知症当事者など様々な関係者との綿密な協議プロセスを経て作成された。この計画には、2019年度は300万ドル、それ以降の4年間は毎年1,200万ドルの予算が含まれる。

2017年5月にWHOが採択した認知症に関するグローバル計画では、194の加盟国のうち146か国が2025年までに全国的な対応を展開するよう目標を定めている。しかし現在の所、まだ目標の15%しか達成しておらず、今回のカナダでの発表によって、他国もよい刺激を受けるだろう。

- <https://www.alz.co.uk/news/canadian-government-launches-national-plan-to-tackle-dementia>
- <https://www.canada.ca/en/public-health/services/publications/diseases-conditions/dementia-strategy.html>

●オーストラリア:新たな高齢者ケア権利憲章(Charter of Aged Care Rights)の発表

高齢者ケア利用者の権利に関して、これまでは利用者権利原則(User Rights Principles) 2014の下で複数の憲章(施設ケア、在宅ケア、短期および回復期ケア)が存在した。しかし消費者にとっては、自分たちが受けているケアがどこに属し、どの憲章が自分たちの権利に当てはまるのか、理解しにくい状況であった。またそれぞれの憲章では重複部分も多いが、異なる内容もあり、ケアの内容によって保証さ

れる権利がなぜ異なるのか、という疑問も生じている。これらの問題は、高齢者ケア全体を対象とした単一の憲章を作成することで対応できる。

このような、単一の高齢者ケア権利憲章を作成するにあたり、2018年9月5日から10月10日まで、国民から意見を聴取した。その結果報告は、[こちら](#)から閲覧可能である。

2019年7月1日からは新たな単一の高齢者ケア権利憲章が、これまでの憲章から置き換えられ、あらゆる種類の公的ケアやサービス(例:施設ケア、在宅ケアパッケージ、フレキシブルケアなど)を受けている全ての消費者に対して同じ権利を提供する。

憲章は主に14項目の権利を記しており、たとえばそこには、安全で質の高いケアやサービス、虐待やネグレクトのない生活、自立、プライバシーなどが含まれる(下記ページで全14項目の閲覧可能)。

- <https://agedcare.govcms.gov.au/quality/single-charter-of-aged-care-rights>



海外／国際機関の報告書・ガイドブックなど

●世界:国連「世界人口予測 2019」の発表

世界人口は2019年の77億人から、2030年に85億人(10%増)、2050年には97億人(26%)、2100年には109億人(42%)に達すると予測されている。2027年前後に、インドが中国を上回り、世界最多人口国に浮上すると予測される。世界的に、女性一人当たりの子供の数は減少傾向にあるが、サブサハラ・アフリカ(4.6)など、高止まりしている地域もある。65歳以上人口に対する25-64歳の現役世代の割合は世界的に下がり続け、保健・年金・社会保障等への支出要請により、財政状況・労働市場・経済成長に大きな影響を及ぼしかねない。とりわけ高齢化の進む日本では1.8と世界最低の水準である。幾つかの国では、低い出生率や移民流出により、人口減少が始まっている。移民も人口動態の大きな要因であり、出稼ぎ(バングラデシュ、ネパール、フィリピン)や内戦(シリア、ベネズエラ、ミャンマー)による国外流出を経験する国もあれば、純流入(ベラルーシ、エストニア、ドイツ、ハンガリー、イタリア、日本、ロシア、セルビア、ウクライナ)が予測される国もある。

- https://www.jircas.go.jp/ja/program/program_d/blog/20190618 (日本語案内)
- https://population.un.org/wpp/Publications/Files/WPP2019_Highlights.pdf (報告ハイライト)



海外／国際機関の報告書・ガイドブックなど

●世界:アンチ・エイジング市場が 2021 年には世界で 2,165.2 億ドル規模に

マーケットリサーチ報告によると、アンチ・エイジング市場は 2021 年には約 2,165.2 億ドルに達すると見られている。主なプレーヤーは、パーソナル・マイクロダーマ、アルマレーザーズ、ロリアルなどである。報告ではまた、需要に影響を及ぼす要因や市場の集中状態、SWOT 分析、今後成長が見込まれる地域などもカバーされている。

- <http://zmrnewsmagazine.com/32736/global-anti-aging-market-to-reach-a-valuation-of-us-216-52-billion-in-2021/>

●主要 6 か国:世界経済フォーラム、預金より数年間長生きすると予測

オーストラリア、カナダ、日本、オランダ、英国、米国の女性たちは、預金だけでは高齢期の生活に不十分であり、不足分に備える必要がある。

平均寿命の伸長により、女性は預金を取り崩してからも 10 年以上生活が続くと見込まれている。日本の場合、預金で賄えるのは退職後 4.5 年のみで、その後の余命は男性で 15.1 年、女性で 19.9 年と記されている(報告書 p.21 参照)。

世界経済フォーラムの報告は、政府は行動を起こすべきではあるものの、個別ニーズが異なるために汎用的な退職後の政策を避けるべきであると提案している。むしろ個人が長期的なリターンを増やすような投資が行えるよう、規制を変更または緩和すべきであると述べている。

- <https://www.weforum.org/press/2019/06/retirees-worldwide-will-outlive-their-savings-by-a-decade-and-women-will-fare-worse>
- http://www3.weforum.org/docs/WEF_Investing_in_our_Future_report_2019.pdf

●英国:この 10 年で、70 歳以上の就労者が 2 倍以上に増加

Rest Less(50 歳以上を対象に就労およびボランティアの機会提供を行う英国最大の会員コミュニティ)が行った統計局データの分析によると、フルタイムまたはパートタイムで雇用されている 70 歳以上の人たちの数は、この 10 年間で着実に増加しており、就労者の割合は、22 人に 1 人から約 12 人に 1 人まで増えている。その他の結果には、以下が含まれる。

- ◇ 70 歳以上の男性のパートタイムまたはフルタイムの雇用率は、11%。
- ◇ 70 歳以上の男性の雇用者数は、この 10 年間で 137%増加。
- ◇ 70 歳以上の男性のフルタイム就労数は、10 年前より大幅に増加。2009 年の 36,302 人から 2019 年には 113,513 人となり、213%の増加。
- ◇ 70 歳を超えても働いている女性の数は、この 10 年間で 2 倍以上増えて 131%の増加率。
- ◇ 英国では現在、80 歳以上の就労者数は 5.3 万人であり、そのうち 75%は

パートタイム。

- <https://restless.co.uk/press/the-number-of-over-70s-still-working-has-more-than-doubled-in-a-decade/>

●英国: Centre for Ageing Better の「エイジフレンドリーで包摂的なボランティア活動(Age-Friendly and Inclusive Volunteering)」ガイド

全国ボランティア週間(6月1-7日)の一環として、高齢ボランティアの支援、募集および定着に向けた新たなガイドが発表された。

このガイドでは、包摂的で幅広い参加へのバリアへ対応するために、ボランティアと一緒に取り組む団体が採り入れられる6つの原則を紹介している。

たとえば、柔軟性を持たせる、ボランティアが他の人たちと会ったり時間を過ごしたりする機会を提供する、ボランティアそれぞれの強みを活用する、などである。また高齢ボランティアの支援、募集、定着に役立つ実践的な例や案も提供している。

- <https://www.ageing-better.org.uk/news/guide-age-friendly-and-inclusive-volunteering-volunteers-week>
- <https://www.ageing-better.org.uk/sites/default/files/2019-05/Age-friendly-andinclusivevolunteeringfinalprint.pdf> (ガイド全文)

●米国: 自分の人生に目的があると感じている高齢者は長生きの可能性あり

JAMA Network Open に掲載されたこの調査結果では、「自分の人生には目的がある」と感じている人は、心臓、循環器および消化器疾患による死亡率が低く、比較的長生きする可能性が高いことが示唆された。

50歳以上の約7,000人を10年以上追跡したこの調査では、人生の目的を低くランク付けした人は、高くランク付けした人よりも、調査終了時まで死亡している確率が2.43倍高かった。

- <https://www.reuters.com/article/us-health-longevity-purpose/seniors-who-feel-their-life-has-purpose-may-live-longer-idUSKCN1SU2DM>
- <https://jamanetwork.com/journals/jamanetworkopen/fullarticle/2734064>

●カナダ: 地域の高齢者虐待対応に役立つツールキットを州政府が発表

- <https://www.alberta.ca/release.cfm?xID=64051682385E7-B24E-D737-2475E4AB8DD74D4A>
- アルバータ州政府は、高齢者虐待への対応でコミュニティ、市民社会団体および個人が地域アプローチを展開するのに役立てるようツールキットを発表した。この取り組みでは連携を奨励することで、高齢者虐待の予防、低減および対応に向けた共同のアクションを通じてコミュニティを強化するよう期待

される。

●オーストラリア:高齢者ケアの利用者アセスメント効率化に関する討議資料発表

2018-19年の予算で政府は、あらゆる高齢者ケアサービスを対象とした利用者アセスメントを効率化する新たな枠組みの作成と実施を発表した。これは2020年より使用予定である。

その準備段階として、高齢者ケアの利用者アセスメント効率化に関する討議資料(Streamlined Consumer Assessment for Aged Care Discussion Paper)が発表された。この資料について2018年12月から2019年2月まで国民から意見を聴取し、新たなアセスメントモデルのデザインに関して高齢者ケア部門などから223のフィードバックを得た。

政府はこのたび、主な課題や諮問から得られたフィードバックをまとめた報告を作成した。政府ではこのモデルについて引き続き、関係者たちと定期的にやり取りを行う予定である。

- <https://agedcare.health.gov.au/programs/streamlined-consumer-assessment-for-aged-care>
- https://consultations.health.gov.au/in-home-aged-care-division/streamlined-consumer-assessments-for-aged-care-ser/supporting_documents/Discussion%20Paper%20%20Streamlined%20Consumer%20Assessment%20for%20Aged%20Care.pdf (討議資料全文:諮問対象)
- https://agedcare.health.gov.au/sites/default/files/documents/06_2019/final_external_summary_report_-_streamlined_assessment_consultation_-_april_2019.pdf (諮問からの主な知見要約)



持続可能な開発目標 (SDGs) 関連情報

●国連:インフォグラフィックスで見る SDGs:プラスチックごみ削減(日本語)

国連ではインフォグラフィックスを活用して、わかりやすい形でSDGs達成に向けた情報提供や啓発に取り組んでいる。上記2点は、プラスチックごみ削減に向けた取り組み例である。

- https://www.unic.or.jp/files/beat_plastic_pollution_ig_new01.pdf
- https://www.unic.or.jp/files/beat_plastic_pollution_ig_new02.pdf

●国連:「MY WORLD 2030」:SDGs 達成に向けたグローバルなアンケート調査に参加しよう(日本語)

MY WORLD 2030 は、SDGs 達成期限の 2030 年までに、より多くの国のより多くの人々からの声を聴くためにスタートした。

調査結果はグローバルなリアルタイムの公開データとして、国連や各国政府などが SDGs の認知度やゴールの進捗を知るために役立てられる。回答者は MY WORLD 2030 (<https://myworld2030.org/?lang=ja>) にアクセスして、以下 3 つの質問に答える。

- ◇ 2015 年に国連にて 193 ヶ国の首脳により署名された持続可能な開発目標(SDG)、またはグローバル目標はご存知ですか。
- ◇ どのグローバル目標が、あなたとあなたの家族にとって目前に迫っている課題ですか？(6 つ選択してください。)
- ◇ 過去 1 年間で、選択したグローバル目標の状況は次のうち、どれが当てはまりますか:良くなった、変化がなかった、悪くなった。

アンケートでは匿名性は保たれるが、回答内容をよりよく理解するために、年齢・別・国・市町村・学歴・障害の有無について質問があり、これらの項目で抽出して調査結果を見ることが可能である。アンケートは 2030 年まで受け付けている。

- https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/myworld2030/